全科協 News

vol.49 NO.1

平成31年1月1日発行　通巻第284号

特集 未就学児に向けた科学館・博物館・動物園における取り組み事例

CONTENTS

P2 ▶ 特集
P10 ▶ 海外博物館事情
P12 ▶ １月２月の特別展等
P14 ▶ 学芸員専門研修報告
P15 ▶ トピックス

JCSM
Japanese Council of Science Museums Newsletter
全国科学博物館協議会

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20 国立科学博物館内
TEL 03-5814-9863　FAX 03-5814-9898
http://jcsm.jp

未就学児に向けた科学館・博物館・動物園における取り組み事例

科学館や博物館では、昨今、未就学児に向けた展示、教育プログラムの開発が重要視されてきている。特に、都心部の美術館、博物館では子育て世代を中心に、平日や土日を問わず未就学児を連れた方が多く見られる。未就学児が参加・体験できるプログラムのニーズが高まっており、全国の科学館、博物館でも親子向けプログラムの導入が求められている。これまで小学生～大人（一般）向けのプログラムは多くの館が用意していると思われるが、未就学児向けのプログラムは、まだまだ少ないのが現状である。

未就学児とは、まだ就学年齢に達していない子ども（6歳以下）を表すが、児童福祉法第4条第1項には、子どもの年齢区分として、次のように定められている。「乳児」：生後すぐ～満1歳まで、「幼児」：満1歳から小学校入学前まで、「児童」：小学校就学の始期～満18歳まで。この定義であれば、幼児は満1歳～小学校入学前（6歳）までを指すことになる。1歳から6歳までの間に自立歩行や発語、文字の読み書き、道具の使用など、子どもの能力は劇的に変化していく期間である。そして、年齢によって、出来ることや理解度、集中力も大きく異なる。扱うテーマ・内容の設定にも注意が必要であり、さらに未就学児が安心・安全に取り組めるためには、体制や運営方法など、課題面も多いと言える。

そこで、本特集では、未就学児に向けた取り組みについて取りあげる。それぞれの組織の特徴や体制、現状に沿って工夫や改善が行われている取り組みを紹介頂く。釧路市こども遊学館と福井県児童科学館からは、児童館と科学館の側面を持つ館の事例として未就学児向けプログラムの特徴や工夫点を挙げて頂いた。上野動物園からは、園内に特別な展示空間を設けて乳児（0歳）～幼児を対象とした特別なプログラムの事例について、北九州市立自然史・歴史博物館からは、館内の常設展示の一部に子ども専用のスペースを設けている事例について、ご紹介頂く。

未就学児向けならではのアイデアや工夫、注意点等の事例を、現在未就学児向け展示・プログラムを実践している館や今後検討する館に、参考としていただければ幸いである。

博物館研究vol.53 No.9（No.603）特集「幼児を対象とした博物館の取り組み」も参照されたい。

（編集委員　中井 紗織）

幼児を引き付ける「遊びと学びの融合」

釧路市こども遊学館　育成担当リーダー　廣谷 由美子

はじめに

北海道の道東に位置する釧路は人口約17万人の港町。タンチョウが生息する釧路湿原や阿寒湖のマリモといった大自然と、幣舞橋から望む夕日が素敵なまちです。

そんな日本の東の端にあるまちで、毎日多くの子どもたちが遊ぶ施設が釧路市こども遊学館。2005年に市民の期待を受けオープンしました。

これまでの科学館とは違う施設を作ろう！市役所を中心に一般市民が知恵を出し合いたどり着いたのが「遊学館」でした。これまでの科学館機能だけではなく、小さな子どもも楽しめる遊びの要素を取り入れ、親子で気軽に入ることができる施設にしよう、というのが狙いでした。

施設に入ってすぐのスペースには、冬は寒くて外遊びが難しい釧路にあって、砂遊びが年中できる大型の屋内砂場が設置されました。ここは無料ゾーンとなっており、天候に左右されることなく全面ガラス張りの建物に降り注ぐ光の中で、年齢問わず裸足になって砂遊びを思う存分楽しめます（図①、図②）。

幼児が楽しめる展示が豊富

展示室に入ると、１階の目玉遊具であるネットジャングルがあります（図③）。対象年齢を５歳からとしていますが、５歳に満たない小さな子どもたちにも、興味深々な遊具です。登り口がチューブのトンネルになっていて、登りがきついため、チャレンジしてみては無念の涙を流します。そして、いつか登れることを信じて、来館するたびチャレンジしてみます。

そんな、まだ難しい遊具の他にも、小さな子どもが楽しめる場所がたくさんあります。ままごと遊び、ソフト積み木、ボールプール…体を思う存分動かして疲れたら、親子で絵本をゆったり読むこともできます。

３階に行くと、そこは科学館！小さな子どもたちは遊具で遊ぶように、踏み台に上ってとりあえず触ってみま

図①　全面ガラス張りの外観

図②　国内最大級の屋内砂場は無料ゾーン

図③　空中に浮かぶネットジャングルは
幼児のチャレンジ精神をくすぐる

図④　ワークショップは毎日開催
この日は秋の壁飾り「きのこちゃん」

図⑤　幼児から大人まで大人気の
サイエンスショー

図⑥　幼稚園・保育園を対象にした
団体メニュー「スーパーボール作り」

す。風、水、音、光、力、といったテーマごとに分けられた展示も、小さな子どもにかかっては全てが遊びものとなります。触って、動かして、見て、考える。まだまだ科学の原理がわからなくても、遊具感覚で楽しめる展示がたくさんあります。オープン当初にはなかった生き物展示も、小さな子どもたちの人気の的！春先にやってくる鮭の稚魚の成長を楽しみに、毎日通う姿は微笑ましい限りです。幼児の五感を刺激するには十分な展示です。

とにかく触ってほしい、感じてほしい、そして年齢とともに少しずつ学んでほしい。それが遊学館の基本的なスタンスなのです。そんな通常の科学館とは少し違う、遊びの要素をたっぷり盛り込んだ展示が多いことが、幼児を楽しませる大きな要因となっています。

幼児が楽しめる事業作りの工夫

展示を目当てに来館する幼児連れ親子が非常に多く、当初の想定を超えるものでした。

それに伴い、幼児向けの体験メニューのニーズが高まったため、幼児を対象とした事業作りの工夫を重ねてきました。

開館当初から実施している毎日工作の体験ができる「ワークショップ」（図④）では、メニューを決める際、次の点にポイントを置きました。

- いつ来ても楽しめるよう、午前午後違う工作メニューを２週間程度で入れ替える。
- 季節やイベントに応じてテーマを毎月変えることで、子どもたちのワクワク感を引き出す。
- 幅広い年齢の子どもが見て作りたくなるような、可愛い物や面白い工作である（例えば、紙コップでケン玉を作るときには、小さな子が好きそうな動物を紙コップに貼りつけたり、ブーメランを作るときには、きれいなマスキングテープで飾りをつけたりなど、見た目を工夫します）。
- 遊具系（飛ばして遊べるものや、動かして遊べるものなど、作った後に遊べる要素がある工作）装飾系（部屋に飾れる物や、身に着ける装飾品など見て楽しめる要素がある工作）など、工作の系統が偏らないようメニューを組む。
- 幼児が必ず作業できる部分があるよう、下準備をする。

プラネタリウムでは、幼児向け投影「きらきらタイム」（通常より時間を短く設定、未就園の幼児も楽しめる内容）を平日１回と月１回日曜日に組み込みました。

３階の科学展示室では、毎日行っているもの作り体験や、土日祝日に開催するサイエンスショーも、幼児でも楽しめる内容になるよう工夫しました（図⑤）。例えば、もの作り体験では、難易度の違う工作の中から、自分に合った工作を、幼児でも選べるようなメニューを用意しました。それに加え、スタッフの対応も幼児を意識した言葉使いや、分かりやすい解説を心がけるなど、幅広い年齢層に伝わるよう努めました。

幼児を対象とした事業は他にも多数あります。

- 全館的なイベントでは、テーマに合わせて必ず幼児も楽しめる内容（例：ぬりえ、簡単なクイズ、テーマに

合ったコスチュームを用意、フォトスポットの設置など）を盛り込む。

- 子育て支援の一環で、月１回程度テーマの違う「親子遊び」を開催。
- 幼稚園、保育園といった団体向けの特別メニューを、市内各園にご案内（図⑥）。プラバン作りや、スーパーボール作りなど、幼児にも実験気分を体験してもらうプチ実験を提供。
- 初めてでも来館しやすいよう、赤ちゃんとお母さんのための、簡単な造形遊びができる親子ワークショップを無料ゾーンで行う。
- お母さんの息抜きになるよう、おしゃれな講座を託児付きで開催。

このように、豊富なメニューを用意することで、来館のきっかけとなるよう、幼児を意識した事業が満載です。

おわりに

当館の理念の一つに、「子どもがわれを忘れて遊んで学ぶ場～学びと遊びの融合」があります。五感を通した「遊び」と「学び」の多様な体験から、子どもたちに科学への扉を開くきっかけをつくり、社会との出会いを広げ、新しい自分を発見することを大切なテーマとしています。その理念に基づいた事業作りを、担当や専門の枠を超えスタッフ全員で取り組めた結果、たくさんの幼児が楽しめる施設になったのだと思っています。

これからの課題もまだまだたくさんあります。幼児期に楽しんでいた子どもたちを、いかに次のステップにつなげるか、中高生の利用率の低さをどう解消するか、幼児期から大人になるまで遊学館という施設を上手く利用してもらうにはどうすべきか…。

課題は尽きませんが、子どもたちの夢や希望となる施設であり続けられるよう、今後もスタッフ一丸となって、研鑽を積んで行きたいと思います。

福井県児童科学館における幼児を対象とした取り組み

福井県児童科学館　子ども支援課長　高橋　茂樹

1　はじめに

本館は「遊びを通じて児童の健康を増進し、その情操を豊かにするとともに、科学に対する関心と理解を深めることにより、児童の健全育成を図ること」を目的とし、児童館・科学館の双方の機能を有する施設として平成11年６月に設置されました。展示エリアやコミュニケーションラボ(実験教室)、スペースシアター、クラフトルームなどの屋内施設と芝生広場・大型の屋外遊具などを有し、幼稚園や保育所、小学校などの遠足や校外学習で県内外から広く利用されています。また、子育て講座・音楽遊び・学校対応支援プログラム（小学校：理科・生活科・総合的な学習の時間）・大人のためのプラネタリウムなどの幅広い年齢層に合わせたプログラムを提供しています。

本稿では幼児とその家族を対象として、楽しみながら科学が学べるいくつかの取り組みを紹介します。

2　幼児を対象とした取り組み

(1) 親子サイエンス

本館ではこれまで、主に小学校４年生以上を対象とした科学体験教室を実施していましたが、今年度から新たに、幼児～小学校低学年向けのプログラムとして「親子サイエンス」を企画し試行しています。身の回りの自然事象や科学技術の仕組みを簡単な実験を通して実感させ、親子が一緒に活動（遊び・工作）することで科学に関するコミュニケーションを促し、科学する心を育むことをねらいとしています。

月に１回、最大10組の親子を対象に開催し、今年度はすでに５回実施しており、各回のテーマは次のとおりです。

①「くうきってなあに・とべ！こいのぼり」
②「お絵かきでプログラミング」
③「かぜとあそぼう・ウィンドカーをつくろう」
④「ひかりとあそぼう・万華鏡づくり」
⑤「からだってふしぎだね・ゾーマトロープ」

プログラムは１時間で、次のように構成されています。

- 導入：簡単な実験などを通して、「感じる（感性を豊かにする）」を体感・実感
- 展開：親子遊びを通して、「知る（概念を理解する）」・「考える（問題解決のために考える）」を体験
- 発展：親子工作を通して、「行動する（生活に活かす）」を体験

プログラムを進めるに当たっては、幼児期は特に「感じる」が重要だと考えており、そのための工夫として、

- 実感できるような簡単な実験を取り入れる。
- 理解しやすい言葉を使う。などを心掛けています。

「くうきってなあに」を例にとると、導入で、大きなビニール袋に空気を詰め込んで押したり、袋から空気を追い出したりして目に見えない空気を実感させます。ま

た、「ぎゅうっと逃げないように袋を押すとどんな感じかな」などの分かりやすい言葉を使って理解させます。そうすることで、子どもたちはキラキラ目を輝かせ、うんうんと頷いてその後の活動にも意欲的に取り組むようになります。

次に、展開では、「遊び」も重要だと考え、次の５つのブースを用意し、親子で遊びながら「知る」「考える」を体験します。

①ブロアーで巨大風船を浮かせる
②羽のない扇風機で風の流れをみる
③たこさんパンチ・アニマルパンチで遊ぶ
④風船ベッドでふわふわを感じる
⑤とべ！こいのぼりを飛ばす

これにより、親子で一緒に考えることができ、親子のコミュニケーションや信頼関係が深まります。

実施後に行ったアンケートでも、

- 低学年向けということで分かりやすく、子どもも楽しみながら学んでいた。
- 大人も子どもと一緒に学べました。説明の方の話し方もとても上手で引き込まれました。

など、参加者のほとんどが「楽しく学べた」と回答してくれました。

課題としては、テーマの設定の仕方と１単位時間の長さや内容の検討が挙げられます。今年度は自然界における基本事象をテーマとして設定しましたが、今後は参加者のニーズも把握しながら設定していきたいと考えています。また、より多くの親子がもっと気軽に参加できるような内容も試行しながら、本格的な実施につなげていきたいと考えています。

(2) ファミリープラネタリウム

本館には北陸最大級の直径23ｍのドームスクリーンのプラネタリウム施設（スペースシアター）があり、開館以来、幅広い年齢層に天文や宇宙への興味・関心を高めるような取り組みを進めています。特に、平成26年度からは、「大人のためのプラネタリウム」と題して、星空解説とミニコンサートをコラボさせたプログラムを実施してきました。そのような中、小さい子どもも一緒に参加できるプログラムを実施して欲しいという要望を受け、親子で参加できる「ファミリープラネタリウム」を企画することとなりました。

この「ファミリープラネタリウム」は、子どもたちが小さい頃から星空や音楽に慣れ親しむことで、宇宙への興味や豊かな情操を養うことをねらいとし、昨年度は試行で１回、今年度より年間４回の計画で本格的に実施しています。

プログラムの内容としては、親子で一緒に歌ったり、体を動かしたりできるような参加型のコンサートになるよう事前に出演者と打合せを行っています。また、０才児からを対象としているため、

- 星空解説の時間を短縮する。（通常15分→10分）
- 会場内のスタッフを通常より多く配置する。
- 途中で泣き出す乳幼児への対応として、コンサート中の出入りを自由にする。
- 小さい子どもが安心して楽しめるような雰囲気づくりをする。（会場内はできるだけ明るくし、開始前後には楽しく優しい音楽を流す。）
- 小さい子の興味･感心を引くようなチラシを作成する。

などの工夫も行っています。

特に人気が高く好評だったのは、昨年度開催した「たにぞうファミリーコンサート」でした。ＮＨＫ教育テレビ「おかあさんといっしょ！」に楽曲を提供するなど全国的に活躍されているたにぞうさん（谷口國博さん）をお招きし、一緒に歌ったり、リズム遊びを楽しんだりの親子でふれあうコンサートを開催しました。１部・２部ともほぼ満席状態で、幼児の参加も多く、膝に乗せながら子どもと一緒に手拍子するなど親子で楽しむ姿が見られました。開催後のアンケートでも、

- 子どもと一緒に行けるコンサートが無いのでとてもう

親子サイエンス「くうきってなあに・とべ！こいのぼり」

ファミリープラネタリウム「たにぞうファミリーコンサート」

れしいです。
- 参加型でよかったです。
- キッズソング生演奏をプラネタリウム映像と楽しめて、とてもよかったです。

など、大変満足した様子が伺えました。

課題としては、参加者がより安心して楽しめる環境づくりが挙げられます。今年の８月に開催した時には、真っ暗になった瞬間、泣き出して外に出てしまう場面が見られました。会場内を真っ暗にしないプログラムを構成するなど、幼児に配慮したものにしていきたいと考えています。

3　おわりに

本館においては、紹介した以外にもクラフト教室や音楽あそびなど、様々な幼児を対象とした取り組みを行っていますが、どの取り組みを実施するに当たっても、次のことをねらいとしています。
- 親子で「驚き」や「発見」を共有することや、活動の中でコミュニケーションが進む働きかけを行うことで、子どもの感じる力や考える力が養われる。
- 親子で一緒に作ったり楽しんだりした体験が、家庭での親子のコミュニケーションや自然事象を身近に感じるきっかけづくりとなる。

すべてのプログラムが、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる重要な幼児期に上記のねらいを達成できるよう提供していきたいと考えています。

上野動物園　乳幼児プログラムの紹介

恩賜上野動物園　子供動物園係　橋川 真弓

上野動物園の子供動物園は1948年、日本で最初の子供動物園として誕生した。その後、園内で３回移転し、４回の改修を経て2017年７月不忍池のほとりに第５次「子ども動物園すてっぷ」（以下「すてっぷ」）としてリニューアルした。場所・形態を変えながらも70年間で変わらない基本方針は「動物とのふれあいを通じて弱者をいたわる心を少しずつでも子どもたちの心に植えつけて行きたい」「子どもたちに優しい心を持ってもらいたい」ということである。「すてっぷ」ではこの理念を引き継ぐとともに、日本で最初にできた子供動物園の発展した姿､時代にあわせた「学び」を提供することを目指した。子供たちが生き物や自然への関心を子供動物園から動物園全体に広げていくきっかけ作りの場と位置づけ、これまでのふれあいプログラムに加えて、生物多様性や身近な自然について学べる展示（野生動物、不忍池の生き物展示)、これまでプログラム提供のなかった乳幼児（０～３才）を対象とした学びの場「はじめてルーム」を新設した。

現在、動物園でおこなわれている子供向け教育プログラムの構成は、すてっぷでは０歳～小学校２年生程度までをメインターゲットとし、動物に触れることで感じ、その体験を考えることで動物への関心を高めるプログラム（総称してふれあいプログラム）を主に行っている。一方、小学校３年生からは動物解説員が主に担当し動物を観察すること、得られた体験を考えることから一歩進め、行動につなげていく指導を行っている。

今回はすてっぷの施設・プログラムの中から、０～３才児をターゲットとした「はじめてルーム」について詳しく紹介する。

1．０～３才児プログラム創設の経緯

リニューアルに先立ち、旧子供動物園入園者、プログラム利用者の年齢構成などを調査した（図１）ところ、これまで主な対象としていた幼稚園から小学校低学年より幼い子供の利用が多いことがわかった。免疫機能の未発達等を理由にこれまでこの年齢層については、動物介在プログラムの提供は行われてこなかった。しかしながら、この層を取り込むことは様々な意味でこれからの動物園発展のために必要と考えられ､０～３才児向け施設･プログラム提供の検討を開始した。

2．「はじめてルーム」のコンセプト

近年子供向けの木育や知育、親子のコミュニケーションが図れる施設が多く新設されているが、上野動物園で乳幼児向けの施設を立ち上げるのは初めての試みである。このため、他の乳幼児向けの施設を見学し、「はじめてルーム」では動物園の最大の強みである「ほんものの生き物」を展示に使用し、親子一緒に体験することをコンセプトに、体験の内容、乳幼児の身長・身体能力等に配慮した施設設計を行い展示を作りあげた。

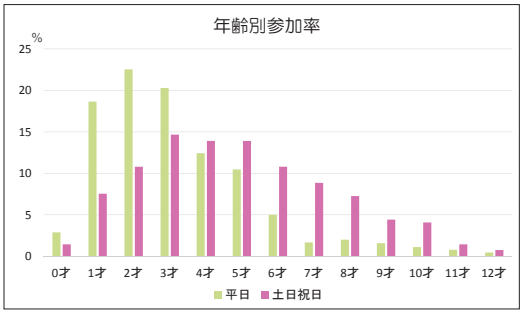

図1

3．施設の概要・展示内容

「はじめてルーム」は子ども動物園のすてっぷ館２階に位置し、100㎡弱の室内に６つの展示を設置した。（図２）

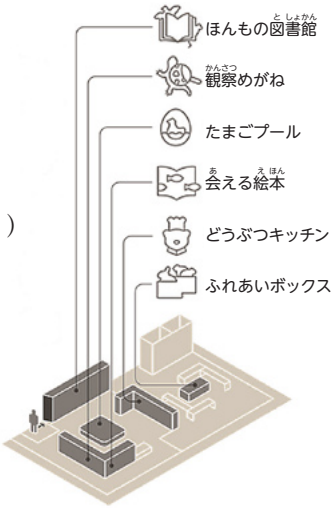

図２　はじめてルーム

○ほんもの図書館　（写真１）

動物が登場する絵本を中心に幼児向けの本を自由閲覧できるようにし、親子で動物について会話ができることを目指した。また、本棚の一部にはランダムに小型哺乳類（チンチラやハリネズミ等）、鳥類（セキセイインコ、オオコノハズク）、両生類（モリアオガエル）の展示ケースを設置し、乳幼児も顔を近づけて親子で観察できるスペースとした。

○観察めがね

アリの巣やトカゲの体の模様など小さなものを道具（虫メガネ）を使って観察する体験ができる。

○あえる絵本

絵本と、絵本に登場する生きものを隣り合わせて展示したコーナー。（「さるかに合戦」とベンケイガニ等）

○たまごプール　（写真２）

実物を模して作った大小様々な木のたまごをクッション性の高い枠内に入れ、プールのように子供が中に入って遊ぶことができる。横にある卵殻標本と比べると、どの鳥のたまごかがわかる仕組み。

○どうぶつキッチン　（写真２）

飼育係の制服を着て木製の果物や肉を玩具の包丁で切る餌作り体験や、作った餌をパネルの動物の口の中にいれる給餌体験など、飼育係ごっこをしながら動物に親しむことができる。

○ふれあいボックス　（写真３）

隣接する別室に、はじめてルーム専用のモルモット、ウサギを登場させ、保護者に手伝ってもらいながら実際に動物に触ることで動物への愛着を育む。現在は１日２回（各10分程度）実施。

4．動物の衛生管理・施設の衛生管理

免疫力の低い乳幼児が利用するため、上野動物園内で最も厳しい衛生基準を定め運営している。衛生基準は厚生労働省の「保育所における感染症対策ガイドライン」を参考に、動物園の獣医との協議を重ね、「はじめてルームの展示動物および衛生管理に関する取り決め」を作成した。取り決めには、展示動物の選定、動物の健康管理、動物の日常衛生管理、来園者への注意喚起の項目があり、それらに沿って運営している。

また、動物や施設だけでなく、「はじめてルーム」に入室するスタッフ自身も、衛生管理の対象とした。スタッフは洗濯後の清潔な制服を着用し、入室前に他の飼育動物と接した場合には、全身着替えなければ入室してはならないとし、スタッフ一人ひとりが高い意識を持ち業務に当たっている。

5．利用方法と状況

「はじめてルーム」は１回45分間のプログラムで、入室は７組まで、最大入室人数35名に制限し、10時から16時の間に６回行っている。参加は整理券制とし、リニューアルに際し発券機を導入した。並んで待つ必要がなくなり、特に幼い子供を連れた方からは大変好評である。プログラムを開始して２年目となり利用者が増え、平日でも毎回７組が入室している。リピーターも存在するが、動物園の公式ホームページ等を通じて知り、はじめて利用する方もいまだ多く見受けられる。

6．問題点と改善

一番の問題点は、参加できる子供の年齢の線引きをどこにするのかということである。オープン当初は厳密に「参加できるのは０～３才の子供とその保護者」とし、例え兄弟であっても、４才以上は入室出来なかった。こ

写真1

写真2

写真3

れは０～３才の子供たちが安心・安全に遊ぶことが出来るようにと配慮したからであった。しかし平日には、０～３歳と未就学の兄弟を母親１人で連れてくるケースが多く利用をあきらめざるを得ない状況があった。このため運営が落ち着いてきた今年度途中より「０～３才の子供が１名いれば、同行の未就学児も入室できる」に変更した。運動能力や創造力がより発達している４～６才の子供たちが「どうぶつキッチン」を占領してしまうことや、「たまごのプール」で木の卵を投げるなど０～３歳児では想定していなかった行動も見られたが、大きなトラブルはなく、家族で利用できると今まで以上に好評を得ている。

７．今後の課題

オープンから１年が経過し、毎日100名程の乳幼児とその家族が「はじめてルーム」を利用している。室内で子供のペースで自由に遊べ、動物園らしい学びができることは概ね好評であるが、中には「絵本の読み聞かせ」や歌などの一般的な子供向け施設で行われるイベントを希望する声もある。一方、圧倒的に多いのが、動物とのふれあいをしたいという希望である。

今後、人員的制約を解決し、ふれあいの回数を増やす方策や、他の乳幼児施設とは一線を画した動物園だからできるプログラム・展示の提供を進め、より多くの親子が楽しみ学べ、憩える部屋にしていきたい。

常設展示での幼児教育：こどもミュージアムに関する事例紹介

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）自然史課学芸員　大橋 智之／歴史課学芸員　宮元 香織・上野 晶子

１．はじめに

北九州市立自然史･歴史博物館（いのちのたび博物館）は北九州市内の自然史博物館、考古博物館、歴史博物館の３館が一つになり2002年11月３日に開館した総合博物館である。開館の際に未就学児向けスペースとして「こどもミュージアム：以下、旧こどもミュージアム」を設置した（図１）。この場所は子どもが遊ぶことによって知識や情報を得たり学んだりするキッズスペースではなく、靴を脱いで出入りし、ぬいぐるみやソファ等を置いただけのプレイルームとして機能する場所であった。利用者は未就学児とその保護者に限定し、特に専門スタッフ等を配置せずに自由に利用してもらっていた。この他、隣に展示標本や収蔵標本を検索し調べるのに利用できるパソコンを複数台と資料の検索の参考となる図書・辞典・雑誌類を館内での学習のために置いた無料スペースを「情報館」として設置した。ここでは当館が所蔵する映像資料の視聴も可能であった。情報館は利用を子どもに制限することなく、来館者が自由に利用できる場所とした。

図１　幼児向けこどもミュージアム（旧こどもミュージアム）。
ぬいぐるみや滑り台等自由に遊ぶ場として想定している。

開館後、旧こどもミュージアムは子どもが自由に遊ぶ場所としては機能していたが、博物館だからこそ設置されている学びの場という利用状態ではない他、小学生も遊ぶような、方針が明確ではない状況が続いていた。また情報館は予算的な問題もあり設置しているパソコンやその情報ソフトの更新ができない状況が生じていた。

２．開館10周年のリニューアル

2012年度に博物館の開館10周年事業として展示等のリニューアルを実施した。この際に旧こどもミュージアムと情報館についても見直し、物に触れて遊びながら学べる場を提供することを目指し改良に取り組んだ。その過程で他の博物館の事例を調査し、当館では何が提供できてどのように運営できるかを検討した。リニューアルの際のコンセプトとして、その場所で遊びながら博物館の展示を体験できる「ミニいのちのたび博物館」を目指すこと、資料に触れて観察し考えることで学芸員を疑似体験できる「キッズ博士」を目指すことを掲げ、これらに沿う場所となるよう可能な限りの検討を行った。

旧こどもミュージアムはこれまで通り未就学児を中心に自由に遊ぶ場とし、情報館はパソコン等を撤去してパソコンコーナーを縮小させて、未就学児から小学生までを対象とした「こどもミュージアム：以下、新こどもミュージアム」として整備した（図２）。ミニいのちのたび博物館に近づけるよう、これまで各展示室に個別に設置していたハンズオン展示物の一部を集約し１箇所で様々な体験ができるようにした。触れる実物化石、メダカ等の水槽、土器の接合を疑似体験するパズル、土器の

図2　こどもミュージアム（新こどもミュージアム）。
触れる化石、土器パズル、昔の道具の他、
ワークショップ等可能なテーブルとソファを設置。

施文方法を体験できるキット、メンコやけん玉等の昔の遊び道具等を設置し、カーペットで靴を脱いで利用してもらう他、畳を設置し親子で楽しんでもらえるように準備した。触れる化石は単に触って終わるだけにならないよう、その化石が館内に展示している恐竜のどの部位であるかを解説するパネルも付設し、展示を見た体験とリンクできるよう準備した。新たなアイテムとして江戸時代の物価クイズのハンズオンも設置した。残念ながら専任スタッフは配置できず、博物館ボランティアに時折利用者の対応をしてもらうということでリニューアルを迎えた。

3．リニューアル後の現状

博物館側の意図のように利用していただけているかアンケート等は取っていないが、少なくとも設置したアイテムを親子で楽しんでいただけており、想定したペースよりも早く補修や交換などの状況も生じている。中にはこちらの準備不足で想定された使い方をされずに回収せざる得ないアイテムもあった。一緒に楽しむ親子もいれば、子どもだけ利用し保護者は新こどもミュージアムに入らずに見守っているケースも見受けられている。また、土日には博物館ボランティアが新こどもミュージアムで恐竜を中心とした折り紙を折ったり紙芝居をしたりしており子ども達に人気を博している。専任スタッフが配置できない中でボランティアの方々には意図を理解していただき、スペースを有効に活用していただけているのではないかと感じる。この他、キッズ博士を体験する子ども向けのワークショップの場として利用する等、リニューアル後の状況としては、以前よりは学芸員の側も有効に活用できる場となっている。

4．現状の問題点・今後の課題

リニューアル時に掲げたコンセプトのような場を提供できているか、そのように利用していただけているかについてはまだ改善の余地があるのが現状である。当館の未就学児の割合ははっきりわからないが、約53万人の入館者の昨年度では、団体予約で幼稚園・保育園等が約３%、未就学児、年長者や各種手帳等の対応者も含めた無料入館者は約38%である。無料入館者の1/3を未就学児としても約３万人がこどもミュージアムの想定利用者となり、それには設置アイテムの質・量ともに不十分な状況が考えられる。既存のハンズオン等アイテムの一部を１箇所に集約しただけになっており、現状のアイテムを体験することで当館が意図している博物館体験のきっかけや振り返り、親子での語り合いが十分になされているかについては検証しなくてはいけない。また、現時点では、当館が考える、新こどもミュージアムにあるべきアイテムを揃えてコンセプトに合致させようと取り組んでいるが、今後はアンケート等も実施し、コンセプトで想定している親子等の利用者が望むアイテムを備えていくことも検討する価値があるかもしれない。

現状では専任スタッフを常駐できない中で、ボランティアの方に頼っている点も課題であるが、当館の運営・予算規模からするとスタッフ常駐は現実的ではないので、人的サービスに拠らない在り方を国内外の博物館の事例を調査し、更に検討していく必要を感じている。

館内での場所は新設することが難しいため、現在のスペースで工夫していく他ないが、デザイン等はその分野の専門家等の意見を伺い改善可能な点である。例えば、現状では土足禁止にしてカーペットを敷いているが、保育園や幼稚園で利用されている水拭きが可能な床面への変更を検討する等が考えられる。

新こどもミュージアムとしての役割や提供する内容は博物館側（学芸員）が考えるが、そのアウトプットやデザイン等は博物館という施設を離れて、幼児施設や遊園地等、子どもや親子連れが安全に十分に楽しめる場を参考にしていくことも課題として考えている。

海外博物館事情

No.149
安井　亮

■ 新設館

バウハウス博物館が、独デッサウ市で開館へ

バウハウス（Bauhaus）は、ヴァイマル共和国に1919年に創立された、工芸・写真・デザインなどを含む美術と建築に関する総合的な教育を行った学校。ナチスによって1933年に閉校されるまで、学校としての歴史は14年間に過ぎなかったが、その活動はその後の現代美術と建築に大きな影響を与えた。

2019年は、バウハウスの創立100周年にあたり、ドイツ各地でさまざまなイベントが計画されている。その中の目玉は、ザクセン＝アンハルト州デッサウ市（82,500人：2016年）に開館するバウハウス博物館（Bauhaus Museum Dessau）である。設立と運営は、デッサウ市にあるバウハウス・デッサウ財団（非営利組織）で、バウハウスの教官や学生が手がけた多くの作品や資料からなる財団の所蔵品が新しい施設に移され、開館以降に積極的にそれらを使った展示活動が展開されることになっている。2,100㎡の展示面積をもつ新しい建物は、バルセロナを拠点に活動しているゴンザレス・ヒンツ・ザバラ建築設計事務所が手がけ、デッサウ市中心部の市立公園に設けられる（所在地：フリードリッヒ通りとカヴァリアー通りの交差点近く）。開館日は、2019年9月8日。総工費は、2,500万ユーロ。

Bauhaus Museum Dessau, Dessau.
https://www.bauhaus-dessau.de/foundation.html
http://bauhausmuseum-dessau.de/en/home.html
https://www.dezeen.com/2016/12/06/gonzalez-hinz-zabala-design-new-bauhaus-museum-dessau-germany/
https://www.inexhibit.com/case-studies/the-new-bauhaus-museum-dessau-by-gonzalez-hinz-zabala/

名車マスタング博物館が、米コンコードで開館へ

国産のシャコタンを乗り回して喜んでいる悪友によれば、マスタングは腐っても、やはりマスタングだそうだ。故障が多く、燃費が悪く、どんなに銭を撒き散らしながら走っても、そのブランド力は下がることはないらしい。その、米フォード社が誇るスポーツカー「マスタング」は、アメリカでは、人呼んでアメリカのスポーツカーの代名詞となっている。初代マスタング（ムスタングとも）は、1964年4月17日から開催されたニューヨーク万博でデビューし、現在でも後継車が生産されている。歴代のマスタングは、アメリカを中心に多くの熱烈なファンをもつ。そうしたファンの集まりの一つであるマスタング・オーナーズ・クラブによって設立されたマスタング博物館（正確には、マスタング・オーナーズ博物館）が、ノースカロライナ州コンコード市（90,000人：2017年）に2019年4月17日に開館する。約4,000㎡の延べ面積をもつ新しい施設では、約50台の実車が収蔵・展示でき、そのすべてはマスタング・オーナーズ・クラブの会員が所有するものだ。コンコードや周辺には特にフォード社の生産拠点があるわけではないが、すぐ近くにシャーロット・モーター・スピードウェイがあり、博物館を運営するマスタング・オーナーズ・クラブは、スピードウェイ（観客席数は16万5,000席）のレースにやって来る観覧者をアテにしている。

Mustang Owner's Museum, Concord, NC.
https://www.mustangownersmuseum.com/
https://www.torquenews.com/3768/mustang-owners-club-announces-opening-date-its-museum

■ 移転新装

全米子ども博物館が、米連邦議会議事堂近くに移転・新装オープンへ

米ホワイトハウスの近くに、全米子ども博物館が2019年7月31日に開館する。約3,000㎡の延べ面積をもつ新しい施設は、連邦政府が所有するロナルド・レーガン・ビルディング（正式名称：ロナルド・レーガン記念ビル＆国際貿易センター）の1階に設けられる。主に8歳から12歳までの年齢層に対して、体験学習を重視した展示を使って、科学・技術・エンジニアリング・美術・数学（STEAM: Science, Technology, Engineering, Art, and Math）の基礎が、楽しみながら学べるようになる計画だ。

全米子ども博物館は、2012年から2015年までは、首都の中心を流れるポトマック川を南に少し下がった郊外のナショナル・ハーバーというウォーター・フロントで活動していたが、もともとは1974年に首都の北東地域で産声を上げ約30年にわたって地元に密着した子ども博物館「キャピトル子ども博物館」だった（2003年に今の名前に変更）。

National Children's Museum, Washington DC.
https://www.nationalchildrensmuseum.org/

■ 企画展・特別展

気候変動展が、米ベル自然史博物館で開催へ

2018年7月14日に建物を立て直し、大々的にリニューアルされたミネソタ大学自然史博物館で、気候変動をテーマにした特別展が、2019年2月2日から2019年4月28日まで開催される予定だ。同展では、地球全体がだんだんと温暖化が進んでおり、かつ湿度も高くなってきている状況にあることを明らかにしており、そうした状況の進行の中で、変化に適応できる植物や動物もいれば、変化に適応できないものもいることを訴えている。さらに人間の活動は気候変動の原因をつくっているが、同時に気候変動の影響も少なくすることもできるということを訴えている。

巡回展でもある同展の企画・制作は、シカゴにあるペギー・ノートバート自然博物館が手がけた。

Weather to Climate.
Bell Museum, University of Minnesota, St Paul, MN.
https://www.bellmuseum.umn.edu/
http://www.naturemuseum.org/Media/Default/pdfs/Weather%20to%20Climate.pdf

暗闇の中の生命展が、ロンドン自然史博物館で開催

ロンドン自然史博物館では、夜間に活動をする生物をはじめ、日が当たらない洞窟に棲む生物、および深海に棲む生物の生態を紹介した企画展を開催している。展示では、暗闇への適応の中で視力がなくなった魚「ブラインドケーブ・カラシン」が水槽の中で泳ぐ姿を見ることができ、また生きた夜行性の動物に手で触れることができる。そのほかに暗い洞窟の中で棲むヘビが獲物をどのように見えているか等も知ることができる。会期は、2018年7月13日～2019年2月24日。

Life in the Dark.
Natural History Museum, London.
http://www.nhm.ac.uk/visit/exhibitions/life-in-the-dark.html

コウモリ展が、オックスフォード自然史博物館で開催

オックスフォード大学自然史博物館で、あまり知られていないコウモリの生態を紹介した企画展が開催されている。同展は、オックスフォード大学が所有する広大なワイサム演習林（約400ヘクタール）に棲む、ヨーロッパアブラコウモリをはじめ、ウサギコウモリやドーベントンコウモリ等、7種のコウモリ約18,000頭の生態が紹介されている。会期は、2018年7月25日～2019年1月8日。

Bats: The Mystery Beings.
Oxford University Museum of Natural History.Oxford.
Wytham Woods.
https://oumnh.ox.ac.uk/event/bats-mystery-beings
https://www.wythamwoods.ox.ac.uk/home

森林の形成展が、プラハ国立農業博物館で開催

チェコの森林率は34.5%で、その規模は約267万ヘクタールである。首都プラハにある国立農業博物館では、国民への林業についての啓蒙を目的に、同国の森林の形成をテーマにした企画展が開催されている。同展の展示構成は、「森林の形成」「森林の管理」「伐採と林業」。会期は、2017年9月9日～2018年12月31日。

Making a Forest.
National Museum of Agriculture, Prague.
https://www.nzm.cz/en/events-calendar/exhibition-making-a-forest

ニュージーランドの森林展が、ワイカト博物館で開催

ニュージーランドの森林率は31%で、その規模は約831万ヘクタールである。同国で人口が4番めに多いハミルトン市（160,000人：2016年）にあるワイカト博物館で、国民への森林保護の啓蒙を目的に、同市に近いプレオラ森林公園（78,000ヘクタール）の多様性に富む森林を紹介した写真展が開催された。会期：2017年11月18日～2018年2月18日。

The New Zealand Tree Project.
Waikato Museum, Hamilton.
http://waikatomuseum.co.nz/exhibitions-and-events/view/2145882996

国立台湾大学で、日本統治時代から続く演習林を紹介した特別展を開催

台北の国立台湾大学の農業博物館で、中部・南投県の山中にある同大の広大な演習林の形成と豊かな生物多様性を紹介した特別展「山林校園特展」が開催されている。演習林の前身は「東京帝国大学農学部附属台湾演習林」で、日本統治時代の1902年に設置された。現在の演習林は3万ヘクタールを超え、南端は台湾の最高峰である玉山（標高3,952メートル）の頂上に接しており、また演習林は起伏に富み、標高差は約3,700メートルに及び、多様な生態系が確認されている。会期は、2018年11月10日～2019年1月6日。

山林校園特展.
国立台湾大学農業陳列館（台北市）.
http://www.museums.ntu.edu.tw/museums_agricultural.jsp
https://www.exfo.ntu.edu.tw/jp.php?id=2
https://www.jifpro.or.jp/cgi-bin/ntr/documents/NET9008.pdf

List of special exhibition!

1月2月の特別展等

開　催　館	展　覧　会　名	開　催　期　間
釧路市こども遊学館	冬休みイベント	1月4日～1月17日
	ジオ・フェスティバル	1月13日
	とり+かえっこ	2月16日・2月17日
岩手県立博物館	新・収蔵資料展～平成25（2013）年度からの新コレクション～	2018年12月15日～2月24日
ふくしま森の科学体験センター	かがくのえほん展	1月26日～4月7日
福島県環境創造センター	冬季企画展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」	2018年12月18日～1月14日
郡山市ふれあい科学館	第18回コンピュータグラフィックス展「宇宙でまちづくり」	2018年11月10日～1月14日
	ホワイエ企画展「一番身近な星　太陽」	2018年12月1日～1月31日
	スペースパーク企画展「きかんしゃトーマスとなかまたち」	2018年12月8日～1月7日
	ホワイエ企画展「KAGAYA写真展」	2月1日～4月7日
産業技術総合研究所 地質標本館	2018年度特別展 「明治からつなぐ地質の知恵　北海道の地質－北海道命名150周年－」	2018年11月20日～2月17日
ミュージアムパーク茨城県 自然博物館	第73回企画展くだもの展－ギュッと濃縮！果物の魅力－	2018年10月6日～1月27日
	第74回企画展　体験！発見！恐竜研究所－ようこそ未来の研究者－	2月16日～6月9日
栃木県立博物館	ジョージ・ルイスと武田久吉－明治日光の昆虫・植物研究の先人－	2018年10月20日～1月20日
	おじいさんやおばあさんの子どものころの暮らし	2018年12月22日～4月7日
	初物づくし－新収蔵品初公開！－	1月12日～2月11日
	栃木の民間信仰－モノに表れた人々の祈りと願い－	1月12日～2月11日
	あつまれ！自然好き－ポスター発表－	2月2日～3月3日
	下野国から栃木県へ－栃木県を形作った人々－	2月23日～4月7日
川口市立科学館	特別展「ぐるぐる、くるくる展～回転でおこす不思議～」	2018年12月8日～2月11日
千葉市科学館	冬のミニ企画展「月のふしぎ」	1月2日～2月11日
千葉県立中央博物館	平成30年度出土遺物公開事業「千葉寺地区の遺跡展　地中の歴史をさぐる」	1月12日～2月3日
我孫子市鳥の博物館	第82回企画展「友の会展」	2018年12月8日～1月14日
	第83回企画展「てがたん展」	2月2日～6月16日
国立科学博物館	特別展　明治150年記念「日本を変えた千の技術博」	2018年10月30日～3月3日
	企画展「砂丘に眠る弥生人－山口県土井ヶ浜遺跡の半世紀－」	2018年12月11日～3月24日
郵政博物館	THE STEAMPUNK－螺子巻奇譚－	1月1日～4月7日

開　催　館	展　覧　会　名	開　催　期　間
東京消防庁消防防災資料センター消防博物館	冬の企画展「東京の消防を奏でる」 －東京都民と消防の架け橋　東京消防庁音楽隊 70 年－	2月 16 日～3月 17 日
多摩六都科学館	ロクトロボットパーク	2018 年 12 月 22 日～1月7日
三菱みなとみらい技術館	ロケット×人工衛星　最新宇宙ミッションを追え！	2018 年 12 月1日～1月 14 日
はまぎんこども宇宙科学館	冬休み特別企画「体験しよう！バーチャルリアリティとプログラミング展」	2018 年 12 月 22 日～1月7日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展　箱根ジオパーク展－身近な火山と友だちになる－	3月2日～5月6日
福井市自然史博物館	ミニ企画展　干支展「亥」－意外と知らないとなりの獣－	2018 年 12 月8日～1月 27 日
世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ	企画展「イロトリドリの生き物たち」	2018 年 12 月 15 日～4月7日
大垣市スイトピアセンター学習館	クワクボリョウタ展	2018 年 12 月 15 日～1月 20 日
月光天文台	企画展「カレンダーで見る 2019 年」－天象と歴史－	2018 年 11 月 17 日～2月 11 日
ふじのくに地球環境史ミュージアム	くらやみの覇者　－駿河湾のサメにみる多様性と未来－	2018 年 12 月1日～3月 24 日
東海大学海洋科学博物館	「干支の生きもの」－亥－	1月1日～1月6日
	化石クリーニング体験	1月1日～1月6日
名古屋市科学館	スイーツ展	2018 年 11 月 23 日～2月 11 日
キッズプラザ大阪	世界をつなぐ日本の“OSHOGATSU”2019	1月3日～1月6日
きしわだ自然資料館	特別展「なるほど！巣・ワールド」	2018 年 10 月 27 日～1月 14 日
明石市立天文科学館	特別展「2019 年　全国カレンダー展」	2018 年 12 月 15 日～1月 27 日
	特別展「双眼鏡の歴史展」	2月2日～4月7日
鳥取県立博物館	企画展「Our Collections！ －鳥取県のアート・コレクションの、これまでとこれから－」	2月 16 日～3月 10 日
倉敷市立自然史博物館	新着資料展 2018 ＜総合＞	2018 年 12 月 22 日 ～2月 24 日
笠岡市立カブトガニ博物館	特別陳列展「きみはエビ派？カニ派？エビ・カニ展」	2月1日～4月7日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「素敵にａｇｉｎｇ（エイジング）　健康的に美しく」	2018 年 11 月 17 日～3月 10 日
大和ミュージアム呉市海事歴史科学館	第 26 回企画展　「戦艦「長門」と日本海軍」	2018 年 4月 25 日～ 2019 年 3月 24 日
防府市青少年科学館	防府市青少年科学館開館 20 周年記念特別展 「ニコラ・テスラ展～エジソンのライバルと言われたセルビアの天才発明家～」	1月 26 日～3月3日
山口県立山口博物館	寄贈された動物資料	2018 年 12 月 14 日～3月 17 日
北九州市立自然史・歴史博物館	冬の特別展「世界遺産のまち　北九州と明治日本の産業革命遺産」	2018 年 12 月 22 日～2月 11 日
佐賀県立宇宙科学館	冬の企画展「月をめざしたアポロ展」	2018 年 12 月 15 日～2月 11 日

学芸員専門研修アドバンストコースを今年も開講しました!

国立科学博物館では、自然科学系博物館等に勤務する学芸員を対象に、一層の資質・向上を目的として、博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集・保管、調査研究、展示・学習支援活動等について専門的、実践的な学びにつながる研修を行っています。例年異なる分野の 2 コースで実施をしており、今年度は動物コース(陸生無脊椎動物)と理工学コースを開催しました。開催にあたっては、全国科学博物館協議会と国立科学博物館が主催をしており、今年度も協議会加盟館の 15 館 16 名が参加されました(研修全体としては 21 館 22 名)。

研修は 4 日間で実施し、各コースのテーマに関する専門的な講義と実践、そしてサイエンスコミュニケーションに関する講義を行いました。

動物コース 2 日目午後:
チョウ・ガ類の同定を行っている様子

理工学コース 2 日目午前:
実験機器の取り扱いを行っている様子

「基本的なところから現代的な形態測定法まで幅広く網羅された内容でした。標本作製について模索していたので、来年実践してみようと思います。(動物コース参加者)」

「科学的保存に真剣に取り組まれている様子に感動しました。博物館にとっての保存や法改正に改めて注意していきます。(理工学コース参加者)」

4 日間という短い期間中に多くの講義や実践を行うため、内容は盛りだくさんですが、各博物館での活動の幅を広げることや、活動の見直し・点検につながる内容までを扱っておりますので、ぜひご活用ください。

(国立科学博物館　学習課　小川 達也)

Event
イベント告知

第26回　日立サイエンスショーフェスティバル

平成31年1月27日、2月3日に日立シビックセンターで第26回日立サイエンスショーフェスティバルが開催されます。そのうち下記日程には、様々なサイエンスショーを観覧することができますので、ぜひご参加してみてはいかがでしょうか。

- 実施期間　平成 31 年 1 月 27 日（日）
  - 中高生によるサイエンスショー実演
  - 工作・実験体験ブース　他

  平成 31 年 2 月 3 日（日）
  - 全国の科学館によるサイエンスショー実演
  - 工作・実験体験ブース　他
- 場　　所　日立シビックセンター科学館・多用途ホール
- 観 覧 料　両日ともに科学館入館無料　※一部、観覧券が必要
- 主　　催　公益財団法人日立市民科学文化財団

※詳細はホームページ(www.civic.jp)をご覧ください。

新規巡回展示募集

加盟館園がお持ちの資料、あるいは新規に製作する企画展示等について
巡回展事業へのご提供をお願いいたします。
ご提供可能な展示がある場合、またご質問がありましたらメール等で事務局までご連絡ください。
みなさまからのご連絡お待ちしております。

※なお本事業は、所有される資料をお譲りいただくものではありません。

こころを動かす空間をつくりあげるために。
調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営
Tanseisha
空間創造のプロフェッショナル 株式会社丹青社
〒108-8220 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19F
TEL|03-6455-8100(代表)　URL|www.tanseisha.co.jp
札幌・仙台・新潟・名古屋・京都・大阪・福岡・那覇・北京・上海

TOKYO SCIENCE CO., LTD.
ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本

since 1974
地学標本／化石・鉱物・岩石
古生物／レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル
◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F　TEL.03(3354)0131(代表)◆
Fossils, Minerals & Rocks
株式会社東京サイエンス
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
Practical Specimens for Study of Earth Science

我が館の推しなモノ・コト

第20回 大阪市立自然史博物館　横川　昌史

ミュージアムショップ

大阪市立自然史博物館友の会ネットショップ
公式HP　http://omnh-shop.ocnk.net/

大阪市立自然史博物館では、ミュージアムショップは単なる物販の場ではなく、普及教育事業の一翼を担う場だと考えています。学芸員が監修したオリジナルのグッズに加え、厳選された観察用具、関連書籍、自然史関連のグッズを多数販売し、多くの市民の博物館での体験や自然観察をサポートしています。多くの人が関わってつくってきた大阪市立自然史博物館のミュージアムショップは展示や友の会活動と並ぶ博物館の「顔」です。

予告　次回執筆者は、島根県立三瓶自然館 井上　雅仁さんです。

平成30年度第2回理事会・総会および第26回研究発表大会の開催

▸と　き：平成31年2月14日（木）・15日（金）　▸ところ：豊橋市自然史博物館

2月に平成30年度第2回理事会・総会を開催します。1日目の理事会・総会では、来年度の事業計画および予算案等を協議いただきます。お忙しいとは存じますが、みなさまのご参加をお願いいたします。総会の後には、静岡大学理学部教授・キャンパスミュージアム館長　塚越　哲氏の記念講演を予定しております。

2日目には第26回研究発表大会を開催します。今回も多様な加盟館園からそれぞれの館で実践されている活動を発表していただきます。この機会を情報収集、情報発信の場として活用していただけますと幸いです。

それでは、豊橋でみなさまとお会いできることを楽しみにしております。

JCSM 全国科学博物館協議会

全科協ニュース編集委員

大島　光春（神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員）
平田慎一郎（きしわだ自然資料館学芸員（主幹））
早武真理子（公益財団法人日本科学技術振興財団
科学技術館運営部副主任）
中井　紗織（国立研究開発法人科学技術振興機構
理数学習推進部能力伸長グループ）
畠山　泰英（株式会社キウイラボ代表取締役）
平濱美紀子（ディスカバリーパーク焼津天文担当係長）
濱田　浄人（国立科学博物館連携推進・学習センター
連携推進課長）

全科協事務局

国立科学博物館
連携推進・学習センター　連携推進課
（担当：南部・片波見・苫米地）
TEL 03-5814-9863　FAX 03-5814-9898
info@jcsm.jp

発行日　平成31年1月1日
発　行　全国科学博物館協議会©
〒110-8718
台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印　刷　株式会社セイコー社